初めてアメリカの中学校で教えて

Teaching at an American junior high school for the first time

（二部）

アメリカの若い黒人学生の苦闘

Struggles of Young Black Students in America

KIMI ORR

晴れ舞台の数々

２３期 KIMI ORR
（旧姓　金村　紀美子）

日本文化祭

T中学校で教え始めて６か月目にロスアンジェルスにある Japan Culture Foundation（日本文化財団）から五千ドルの補助金を獲得した。それをもとに日本文化祭の開催が決定した。New York やフロリダのディズニーランドから舞踊家や Story Teller (語り手) に来てもらった。空手や柔道のグループについては、地元の道場に直接行って頼んだ。小太鼓のグループは大学のクラブから来てくれた。また学校側から地域の日本人会にも協力してもらうように指示された。日本人会のことは初耳だったがすぐに会長に連絡をとってみた。ところが、会長がそのことについて会員たちに語ったところ『いきなりなれなれしく言葉をかけて来るような人には気を付けるべきだ』と言うことで参加の確約をいただくのに時間がかかった。

待ちに待った文化祭の日がやってきた。生徒たちにはせっかくの晴れ舞台にふさわしく、アトランタの日本領事館から借りた法被（はっぴ）を着せた。講堂は招待客で一杯になった。地区の教育委員会からも参加者があった。日本領事館からも遠路はるばる副領事と秘書の恵子さんも来て下さった。ジョージアの上院議員が参加してくださったのには驚いた。他校の校長先生を始めとして諸先生方、そして生徒たちも来ていたようだった。日本人会の方たちも（少し用心しながらだったのかも？）３０人ほどが、特別に確保しておいた椅子に陣取っておられた。ともかく参加して頂いただけでも嬉しかった。この学校創立以来の出来事だったこともあってか、活気に満ちていた。緊張していたのは私だけだったのだろうか、、、

このアメリカの南部の奥深くでは、日本文化にお目にかかる機会などめったにない。観客のほとんどは初めて、其れも直に目にする色鮮やかな着物をまとった日本舞踊、ディズニーからの **Story Teller** のカーリン天野さんはこの日のためにわざわざ新しい衣装を誂（あつら）えたそうである。
彼女にとっても記念すべき日なんだと思うととても嬉しかった。日本からはるばるアメリカに進出し、大人にも子供たちにも最高に人気のあるディズニーで、言葉のハンディを乗り越えて **Story Teller** として堂々と活躍されている彼女に心から拍手喝采をおくった。

語り手（story teller）

舞台上でのきびきびした武道の動きにアメリカ人は目を見張った。空手のメンバーは５、６人で腰の黒帯で熟練者だと察しがついた。部厚い板を足蹴りで見事に二つに割り、次いで二枚三枚と重ねていく。今度はレンガも二つ三つと重ねながら　素手で見事に砕いていく。レンガがついに１０個ほどになった時には、その演技者の息も精神も緊張も最高潮に達した。観客も息をのむように緊張している。ついに分厚いレンガが一気に砕けたときには観客もホットした気分で、演技者に惜しみなく拍手を贈った。
小太鼓のステージには、軍隊時代にブラスバンドの一員であった校長先生の飛び入り参加で、観客も大喜びであった。

日本語を習い始めてほんの六か月、生徒たちには１から１００まで数える練習、あいうえおチャートの暗記、月、日付け、曜日など、覚えにくいところは暗記しないで、口で覚えるようにと教え、毎日自然に言葉が出るくらい練習した成果を披露した。『うまくできるだろうか！』と私の心配などなんのその、彼らは落ち着き堂々とやり遂げた！　盆踊りの披露では日本人会の方たちも浴衣を着て生徒たちと一緒に踊って下さった。二時間足らずの公演は瞬く間に終わった。その日の夕方、町はずれにある川のそばのレセプションハウスで生徒たちと演技者たちと一緒に打ち上げ会が行われた。生徒たちは今日の自分たちの演技に満足し、そのあとの打ち上げ会の“ご褒美”を心行くまで楽しんだ。

Martin Luther King Jr.Day のパレード

一月第三の月曜日は March Luther King（マーチン・ルーサー・キング牧師）の日である。毎年恒例で、市内の会社や組織、団体が市内をパレード（行進）する。私達の日本語クラスもその行事に参加する機会を得て、生徒全員が参加した。生徒たちは今回も法被(はっぴ)を着た。頭には日本と記された鉢巻をして、太鼓をたたき、日本の歌を歌いながら町を練り歩いた。校長先生もわざわざ出発点で我々を待ち構えてくれていた。４００人ほどのグループが参加し、目を見張るようなグループがたくさん参加していた。

先頭はもちろん高校のブラスバンドだった。其のあとには小さなダンスグループが続いた。キャンサー・ソサエティー・クラブ（癌サポートクラブ）に淑女たちが紫色のスーツと帽子を意気に着こなし、キャリッジ（屋根のない馬車）でゆったりと揺られながらのマーチだった。私達は152番目だった。道路わきは見物人でいっぱいだった。我々の学校の先生方はもちろん、生徒達やその家族、そして友人たちも我々を待ち構えていたかの如く、姿が見えると声を張り上げて感激し、生徒たちも大声で応答し、互いの声がエコーのごとく反響を繰り返した。彼らは今日の主人公として歓迎され，見つめられている喜びに酔いしれていた。そして、我々のグループが **NO. 1** だと後で知らされた時には、喜びよりも驚きの方が大きかった。とてもユニークだと言われた。

“ Yes, we are NO. 1！”（ええ、私たちが一番なんだって!）

やったー！みんなは全身で叫んだ。

2007年5月　Video Conferens （ビデオ会議）

「今からペン大学に向かいます。ここから１０分くらいのところですので、そこに着きましたら、改めてお電話いたします」新鹿(あたしか)中学校の校長先生との電話会話だった。今こちらは朝の９時、日本は同じ日の夜の１０時である。アメリカの今日の夕方７時に、つまり、日本では翌朝８時に、新鹿中学校とT中学校とが初めてビデオコンファレンス（VC＝ビデオ会議）を行い、それがテレビで実況中継される。そして今本番に先立って日本とアメリカでカメラのリハーサルの予定で、校長先生宅にはカメラ係も待機している。

ところがペン大学に着いたらもう夏休みに入っており、係りがまだ来ていないという。でもすぐに来られるだろうと気軽に思い、その係りが来るのを待つことにした。ところが待つこと２時間、その間日本に電話をすることもできずにいた。国際電話なので大学から“ちょっと”などと電話を借りるわけにもいかなかった。日本はすでに真夜中の12時、日本で待機されている人たちには大変申し訳なかった。

リハーサルはほんの10分ほどで終わった。夕方の7時にペン大学に符合し VC が行われる。私はまだコンピューターの VC のシステムに自信がなかったので、その大学の VC 技術者に参加してくれるようにお願いしたところ、『いくらか出してくれるなら』と言うことだった。
じゃ、『いくらですか』と率直に聞いた。『百ドル、わかりました』
話がまとまった。私の緊張感が少し軽くなった。

私がペン大学にいる間も、教育委員会のコンピューターの技術者は私の教室で四苦八苦しながらシステムの設定を試みているはず。二日間もシステム設定に失敗した挙句にペン大学を借りることになった。やれやれという思いで学校に戻った。ところが様子ががらりと変わっていた。学校のコンピューターでも VC が可能であるというのである。私は気が抜けてしまった。学校はどちらの学校でするかは私次第だといいながらも、その口調からは学校でしてもらいたいとの思いが感じられた。私もそうすべきだと思った。ペン大学の技術者には申し訳ないと思いながらもすぐに断りの電話を入れた。こうしてリハーサルも無事終わり、その日の夕方いよいよ本番（実況中継）の時間となった。

新聞記者、先生方、父兄などで小さな教室はごった返していた。私の緊張も高まり、始まる前から早く終わってくれることを願っているほどだった。いよいよ始まった。こちらの映像はすでに“ON”になっている。さてあちらの映像が、、、映りました！ ほっとして、気が抜けそうだった。

三重県熊野市新鹿中学校
とのビデオ会議の様子が
「吉野熊野新聞」などに
掲載されました

「村の鍛冶屋」など合唱

ネット通じ国際交流

米国の中学生と中継

お互いの校長先生の挨拶で始まった。新鹿中学校の生徒は英語で自己紹介し、英語の歌を披露した。とても上手だった。T 中学校の生徒は日本語で自己紹介し、日本語の歌を披露した。生徒たちは互いのペンパルとも面会でき、カメラに向かって手を振っていた。最後にお互いに日本の童謡を合唱して約 1 時間ほどで終わった。新鹿中学校で英語を教えていた私の娘 “エミリー” も私たちに向かって手を振っていた。あくる日の新聞の一面に VC の様子がカラー写真で大きく取り上げられた。アトランタの日本領事館にもその新聞を送信した。秘書の恵子さんからすぐに返事が来た。職員たちはその記事に唖然とし、言葉なく回し読みをしていたという。

今まではT中学校が新聞に出れば悪いニュースばかりだったという。ところが日本語クラスは、事あるごとに新聞や雑誌の記事になり、他校の校長先生からうらやましがられている。と T 中学校の校長は得意そうに私に言った。

新鹿中学校からも VC の掲載されている熊野市（くまのし）の三社の新聞が送られてきた。また NHK で放映されただけでなく、新鹿中学校は熊野市の市長から“誉の賞”を授けられたという。予想もしなかった嬉しい結果になり、私たちにとっても忘れられない思い出になった。

（編者注：新鹿中学校は三重県熊野市にある熊野市立中学校である。新鹿は地名。）

出典先：https://www.nihon-kankou.or.jp/mie/242128/detail/24212cb3490059776

数々のイベント

この三年間に日本語クラスの生徒たちは、数えきれないほどのイベントに参加して経験を重ね、見聞を広めると同時に日本文化の紹介に貢献した。日本領事館が主催されているアトランタ最大の **Japan Festival** への参加。私達の学校からアトランタまでバスで３時間、あの辺りはたくさん日本語を教えている学校がある。そのどこかの学校も **Japan Festival** に参加しているのではと期待していたが、しかしそれは我が**T**中学校だけであった。「サウスキャロライナ久保田工場」を訪問した時には、社内食堂で日本食のランチを味わい、社員の皆さんと一緒に日本の歌を合唱するなどの交流をした。アトランタにある有名な「**NAKATO**レストラン」では、ウエイトレスは着物を着てサービスをする。日本間（にほんま）で座りながらランチをいただき、折り紙などを教わった。

Nakato Japanese Restaurant / Atlanta

その帰りには日本領事館を訪問することになっていた。領事館は高層ビルの１７階に位置していた。生徒たちはこのような高層ビルは初めてということで、おまけに回りがガラス張りである。その近くに立って下を見ると車や人がとても小さく見えるので、自分たちの立っている場所を新たに認識してか、恐怖を感じているようだったが、又そのような冒険を楽しんでいるようにも見えた。あまり家族と一緒に出掛ける機会を持たない彼らたちにとって、日本語クラスのエクスカージョン（遠足）は楽しみであった。

黒人組織の最期

T中学校のそばに黒人の青少年の育成と、生活向上に取り組んでいる事務所がある。その本部はアトランタにあり、中学生のリーダーシップコンファレンス（会議）がアトランタで開催された。その際に **Director** のメアリから『一番悪い生徒を５人送った』と聞いた時。私はちょっと驚いた。リーダーシップコンファレンスだからリーダーになれるような人を選ぶべきなのに。ところが彼女いわく、『彼らにもリーダーになりたいという願望はあるだろうからね。これは彼らにとって絶好のチャンスだと思うわ』　その後で聞いたことだが案の定、その５人のせいでコンファレンスは格好がつかなかったと言う。その半年後、メアリは解雇された。しかも彼女が解雇されただけでなく、組織がこの地域から完全に姿を消してしまった。このことを見て、これは違うのではないかと思った。メアリがマネジメントで失敗したから解雇されるのは理解できる。別の新たな **Director** が来れば組織は持続できるし、青少年の未来のために援助もできる。其れなのにメアリ個人のせいで青少年の育成に努力している事務所まで廃止するとはどういうことなのだろうか。この指示を出したのはアトランタの本部である。
この地域の若者たちは、まさに絶望的なまでに援助や救いを求めている。彼らには励まし、助言し、指導してくれる人が必要なのだ。そのためにその組織があるはず。それを廃止してしまうとは本部のリーダーシップの欠如の最たるものである。

日没直後のミッドタウンアトランタ

日本語クラスの最後

新学期が始まって２か月目に、新しい科学の先生が、生徒が彼の車に傷を付けたという理由で職を辞した。三学期の初めには、三人の担任の先生が何の知らせもなく学校に戻ってこなかった。それが理由なのどうか定かではないが　その一年後には学期末でもないのに、校長先生がほかの学校に転勤になり、新しい校長と教頭が赴任してきた。その新校長の挨拶があるということで　私も講堂に向かった。講堂のドアはすべて透明ガラスで、そのガラス越しにステージの前のフロアーで新校長が何人かの先生方と何か話している様子が見えた。私が講堂に入ったとたん、耳に飛び込んできた彼の言葉が

“My father shot my brother with gun.”（親父はピストルで兄貴をうった。）だった。

ええ、聞き間違ったのかしら、、、急に頭がぼあんとなり、私はいったいどこにいるのだろうと思った。慌てて空いていた近くの椅子に腰を下ろした。そして、今さっき聞こえてきた声の主の方を見た。校長先生は背が高く、頑丈そうな体格をしていた。彼は笑いながら話していた。ほかの先生方も笑っていた。

※この写真はイメージです

でも、、、こんなこと笑って話すなんて！どういうことなのか。彼も別に声を低くして話しているようでもなかったし。それで彼の兄貴はどうなったのだろうか。『父親は刑務所に』、、、ここだけの話を聞いていろいろ迷うこともないだろうが、何か私が到底理解できない闇の深さを痛感させられた。

新校長が日本語をサポートしないと聞いた。その代わりに **Drama Class**（演劇クラス）を持ってくるという。それを聞いた時、私は直接この校長に談判に行った。彼は「日本語は贅沢だ。この学校には不必要なんだ」きっぱりといった。まだ私が日本語を教えている頃に、**Drama**（演劇）の先生が赴任してきたが２週間目には辞めてしまった。その理由は生徒の **attitude**（態度）が悪いからだという。その学年末に私は「首」になった。

新学年が始まって最初の日、ある母親が校長に「自分の息子を日本語クラスに入れて欲しい」と頼みに行ったところが、「この学校にはもう日本語クラスは無い」といわれたと、その母親から直接聞いた。そしてその２年後にはT中学校は青少年刑務所の施設に変わった。　　（完）

あとがき

この文章を書いている間、何回も再読しながら、修正しながら、又加えながら、なぜか北野高校定時制に通っていた若かりしときを追憶していた。何もわからず自分の想いばかり先走っていたあの頃。勤務を終えると、そのあとすぐ学校に通った日々。暑かろうと、寒かろうと、わずかな時間を学校にいそしんだ４年間。働いたいくらかの給料から家族に援助し、自分の生活を支えながら、未来の目的に突進していたころ。
本当にあの頃は何もわからないまま、、、そして人生で一番大切なこと、生きるために一番必要なことを体験していることを知る由もなく、、、それがあったからこそ今の私がある。私にはいつも自由があり希望があった。そして自分で生活することを学んできた。自立なくして自己の発展などあり得ない。そういう自立精神をあの時から育てられてきた。今この黒人たちに必要なのは自ら自立しょうとする気持である。「黒人たちの苦悩とあがき」は彼らにとって大きな進歩であることを私は信じている。「僕はジョージアサウザンド大学に行くんだ。君は？」、「私も大学は行きたいわ」、クラスの中でのそんな生徒たちの会話を思い浮かべながら。あれ以来ジョージアサウザンド大学の前を通るたびに彼は無事彼の望んでいた大学に行けたのだろうか、彼女は無事に大学に行けたのだろうか、と思いが馳せる。

出典：https://www.kuali.co/resource/georgia-southern-university

私がドイツにいる頃、主人はアメリカの軍隊の基地で一市民として「うそ発見器の試験官（Polygraphy Examiner）」をしていた。基地では軍隊の人たちだけでなく沢山のドイツ人やアメリカの市民が働いている。彼の勤めの最後の日には「さよならパーティー」をかねて彼の後任としてやってきた人の紹介があるということで私も参加した。食事会のテーブルに偶然に（と私は思ったがその席はコマンダーの席であることを全く知らなかった）私の横に座った方は其の部隊の黒人のコマンダー（隊長）であった。殆どその食事会の間、彼とは一面識はなかったが会話に花が咲いた。彼は大変私の話に興味を示され、私も彼の話に興味を持った。お互いに家族の写真まで持ち出していた。彼は三人の娘さんの写真を見せてくれた。彼女たちは美しかった。私が、三歳になった孫に浴衣を着せている写真を見せた瞬間、ええっという感じで見つめられて、次に「わあ～、これがあなたのお孫さんですか」彼は全く私に似ていない孫を見てそう言ったのか、それとも孫の浴衣を着ている姿がかわいくてそう言ったのか定かではないが、彼の言葉に私の気持ちは快く感じた。

KIMIさんが見せた写真

彼に、中学校で教えていた時の経験を話した。彼は静かに聞いておられた。話し終えたとき、彼は言った。「私も、ガバメントコート（政府がコントロールしている住居）で育ったんですよ」その時の彼のスマイルからそのような環境で育てられた卑下など微塵も感じられ無かった。また、自分が「コマンダー」であることを誇っている様子などもみられなかった。彼の話し方はとても謙虚であり、そこに彼の“品”さえ感じた。彼は今や、部隊のリーダーとして１００人の部下を統率している。（パーティーに参加されている人数から見て）このコマンダーは見事に「苦悩とあがき」を糧として、生きてきた人だと思った。そして見事にその“あがき”から抜け出した人なのである。自立できるかどうかは　やはり個々の責任なのである。　　（完）

編集後記

23期 常任幹事　畑地　豊
（2021年 9月 22日 記）

1 KIMI ORR さんの北辰会デビュー

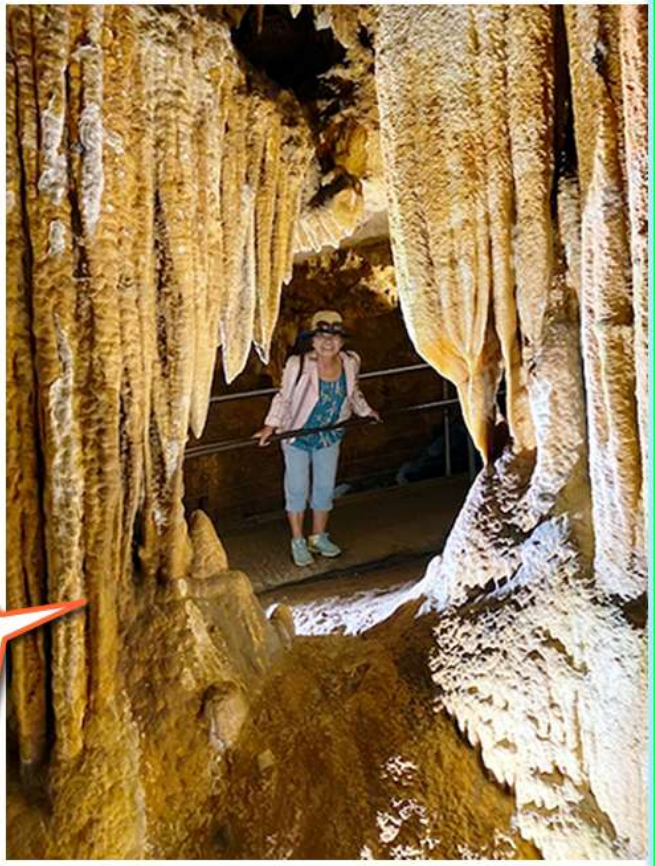
２０２０年８月初旬、事務局長の前田さんから「アメリカ在住の KIMI ORR（旧姓/金村紀美子）さんから北辰会に現住所の連絡を頂いた。今後の連絡等は２３期幹事の貴君に一任します」と連絡が入りました。実に５０余年ぶりであろうか！ その空白が埋まった。驚くとともに会員が増加すること無く、むしろ自然現象的に減少化が否めない今日「会員の増加」は大歓迎である。

直ちにEmailで連絡を取らせていただいた。それ以降彼女から積極的に投稿をいただき、その作品やお便りなどをホームページに掲載させて頂いていることは皆様御承知の通りかと思います！

たくさんの投稿を頂きました。そのたびに作品の「校正」作業が有るので、Emailでのやり取りは計り知れないほどの回数に及んだことでしょうか！ 私は暇ですけど KIMI さんは活動的でアメリカ国内を旅行などで数日間どころか半月ほど外出されていることも多くありました。

とても多忙で有るにも関わらず、迅速にお答え頂いたりして、とても感謝しています。

交信の回数からするとすでに２、３年経過したのではないかと思っていましたが、この原稿を整理してみてふとよく考えてみると今２０２１年８月ですから正味１年しか経ってないんですね！ 自分自身驚きました。それだけの交信の回数が私の頭に錯覚を与えました。（それとも“ぼ〇の始まり？）



パワフルに行動するKIMIさん
ウエストバージニア州
Luray Caverns（洞穴）にて
2021年8月

2 この作品の重さについて感嘆！

今回の作品を受け取った時に、これは意外に長い作品だったので、掲載の特性上から判断して、一部と二部に構えて２回に分けて掲載させて頂くこととしました。
作品の内容はいつも兼田事務局次長が投稿掲載のご案内でその内容を要約して的確に紹介なさって下さっていますので、このことはそこに譲ることとさせて頂きますが、それにしてもこの作品はアメリカにおける歴史的な「黒人問題」を背景にした作品と言えるのではないでしょうか！私など不勉強な徒には口を挟む資格など皆目有りませんが、彼女が勤務されていた学校のあるアメリカ/ジョージア州アトランタ市の人口比率は二人に一人は黒人系のタウンだそうです。かってはリンカーン大統領、キング牧師等のセンセーショナルな大きな事件が有り、今なお混とんと続いているこの社会に飛び込んで、第一線の教師としてひるむことなく真正面から向きあい、彼女なりの問題意識を持って立ち向かってこられました。この彼女の強靭な精神力と行動力に大きな敬意を表したいと思います。

ジョージア州アトランタ市の夜景

3 “熊野古道”を舞台に、ユニークなトライアングル（triangle relationships）の関係に驚き！

本題の主旨と少しそれることになりますがお許しください。
この作品を投稿して頂き、編集を開始している段階で、実は驚くべき事実に巡り合うことが有りました。
KIMI さんと KIMI さんのお嬢さんそして私（畑地）の間に、私の生まれ故郷である“熊野古道”を舞台に、ユニークなトライアングル（triangle relationships）の関係が見いだされることになるのです。
その時の Email のやり取りを以下に紹介させて頂きます。
（関係ある箇所の部分のみの抜き書きです）

2020年 8月 12日

From: 畑地　豊（北辰会）
Sent: Wednesday, August 12, 2020 8:01 PM
To: Kimi Orr

Kimi Orr 様へ

こちらでは本日を含めて８月１６日（日曜日）一杯までの４連休となります。いわゆる「お盆休暇」です。今年は「コロナ禍」の為、帰省して先祖への「お墓参り」などの移動（旅行など）は自粛ムードが高いため、私の出身地の三重県熊野市への移動旅行は断念せざるを得ない状況です。
その代りにこの大阪で静かに過ごすことが可能となります。これはこれで楽しいことに違いありません。

2020年 8月 13日

From: Kimi Orr
Sent: Thursday, August 13, 2020 11:05 PM
To: 畑地　豊（北辰会）
Subject: Re: ホームページに投稿予定の原稿ゲラ完成です。

畑地 様へ

そうですね、いまお盆ですね。懐かしいです。そうですか畑地さんは三重県の熊野市の出身だったのですか。熊野古道のこと娘からよく聞きました。彼女、熊野市で英語教えていたんです。其れから新鹿中学校ってご存じですか。今から１０年ほど前でした。新鹿中学校と私が教えていた中学校と何回かビデオコンファレンスしたんです。あの頃はまだビデオコンファレンスはあまり人に知られていませんでした。初めての時はこちらの校長先生まで緊張しておられました。こちらは夜７時、日本は朝の８時でした。私もがちがちに緊張しておりましたが、、、そのあくる日こちらの新聞の一面に写真

付きで大きく出ておりました。熊野市でもセンセーションが起こりました。新聞やラジオに大々的に放送され、NHKのテレビでも放映されたとのことでした。後程新鹿中学校の校長先生が教育委員会からもまた熊野市の市長さんからもお褒めの言葉をいただいたとのことでした。校長先生はとても喜んでおられました。私にとってもいい思い出です。畑地さんが熊野出身だと聞いてこの素晴らしい私の思い出をお話しました。
日本でも国内でさえも移動することを禁止されているってことは、かなりコロナもひどいようですね。でもそうすることでコロナから逃げ切ることができたら万々歳だと思います！
（中略）　この盆休暇はゆっくり静養なさってください。失礼します。

Kimi Orr

【 編者注： VC＝Video Conferens（ビデオ会議）】

今日の日本ではコロナ禍の影響もあって、ビジネスシーンにおいては在宅勤務や出張禁止・遠隔会議・ 遠隔商談といった、オンラインコミュニケーションの手法が注目されるようになりました。
それに伴って、これまでの働き方のあり方を見直す企業が増えたことで、“Web会議やテレビ会議”といったシステムを活用したコミュニケーションは、もはや一般的で“当たり前”の風景になっています。
このようなリモートで行う会議システムは、「Web会議」や「テレビ会議」という呼ばれ方をされていますが、総称として『オンライン会議』と呼ばれています。
アメリカでは既に１４年前に一般化していたようですね。
それも太平洋を跨いで米日間で！　素敵なことです！

2020年 8月 14日

From: 畑地　豊（北辰会）
Sent: Wednesday, August １４,２３:３２ PM
To: Kimi Orr

Kimi Orr 様へ

長いメールを頂戴しました。ありがとうございました。全ての記事内容は興味のある内容ばかりでした。
中でもやはり私の故郷「熊野市」についてですね！
貴方のお嬢さんが英語の教師として赴任されていたとは驚きです。それがあなたとお嬢さん、あなたと私、お嬢さんと熊野市、私畑地と熊野市、共通の三角形で線がつながったではありませんか！　これは驚きました！　感激しました！
“熊野古道”の神々様に感謝、感謝です！

私の町は「神川町/かみかわちょう」と申します。新鹿町（あたしかちょう）とは自動車で約１時間の距離でしょうか！
私の町は山また山の中です。列車は走っていません。公共交通機関は地元民間バス会社のバスです。しかし今はどのお家も大なり小なり自家用自動車をお持ちですから、バスに頼ることはお年寄りくらいかな！
熊野川の上流にその支流として北山川が有りますが、神川町はこの北山川が流れています。家から近い距離に水力発電用の「七色ダム（なないろ）」が有ります。

新鹿町は太平洋の海に面した町です。きれいな海水浴場を有しています。JR線の鉄道の駅も有ります（紀勢本線）
私の実家の隣には熊野市の教育長を勤め上げた「畑中幹弘/はたなかみきひろ」さんが住んでおられます。
この方に取材をすれば当時のことなどご記憶かも知れませんね！

いずれコロナが落ち着きましたら墓参を兼ねて熊野に帰省して、「熊野市教育委員会」、「新鹿中学校」や「吉野熊野新聞社」まで取材に赴こうかなと勝手に自分の夢を膨らませています。

七色ダム

筆者の故郷
三重県熊野市神川町神上（日暮山/標高723m）

4 エピローグ

２０２１年の夏も終わりを告げ、早や秋風が吹くころとなりました。コロナ禍は悪性に発達して増々予断を許さない状況です。私の住まいの高槻市・地元の町内会活動においても多くの諸活動が中止を余儀なくされています。
そして私の故郷熊野への帰省もその影響で今年も断念せざるを得ませんでした。健康に留意して叡智を結集して、自然の脅威に立ち向かいたいと思います。（完）

那智大滝（なちのおおたき）/ 和歌山県那智勝浦町

「日本の滝100選」のひとつ。「日本の音風景100選」にも選定されています。一般に「那智の滝」といわれ、「一の滝」ともいわれるこの滝は、 落差133メートルの日本一の直瀑です。

熊野古道
（那智の滝参道・大門坂/杉の大木と石畳）

Copyright © 2013 北辰会 All Right Reserved